

カトリック仙台司教区・カリタスジャパン

東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

今回は、先日行われました全ベース会議の様相。そして、石巻ベースの再出発！ さらに米川ベースの近くで新たに活動を始めた聖母訪問会の紹介です。

全ベース出揃いました！

1月31日（火）午後1時から、第1回ベース長会議が開かれました。これは、その数日前に開催された通称「オールジャパン会議」＝仙台教区サポート会議が、午後から沿岸地域を支援しているベース、および沿岸地域を司牧している司祭たちも交え、拡大会議を開きました。

全ベースの責任者一同で！



昨年12月13日、長崎管区の大槌ベースの開所式、12月23日、サポートステーション「もみの木」の開所式、年明けの1月14日は大阪管区の大船渡ベース開所式と続き、これで予定されていた、すべてのベースが出そろいました。

そこで、仙台教区サポートセンター管轄の石巻、米川、釜石ベースの会合が開かれているように、その枠を越えた札幌、長崎、大阪、さいたま教区を含めた全ベース会議を開く必要がある、いや、開いてほしいという強い要望が出されました。

こうして、第1回「ベース会議」が開かれたのです。各ベースで活動しているお互いが知り合うこと、分かち合って互いに支え合うことというために、まず自己紹介から始まりました。

各ベースがどういう活動をしているかを分かち合っている中から、釜石と大槌が距離的に近いことから、どのように分業していくかということ、近くのベースごとに集まって話し合うことが決まったことは、大きな成果といえるでしょう。

大きな被災地の小さな産声！

約3ヶ月間、ベースの改修工事のため、ボランティアの方々を受け入れることができず、ひたすら数人のスタッフで、6カ所の仮設を訪問し、移動カフェを行い、被災者の方々の心に寄り添ってベースの再出発を準備してきた石巻ベース。石巻市が被災していることもあって、職人さんが不足していることや、工事資材の不足などで、工事が遅れに遅れ、1月28日、やっとオープンハウスの日を迎えることができました。

石巻ベースの幼子たち！



前日までの雪空が次第に晴れ、9時には陽の光がふりそそぐなか、オープンハウスの記念ミサが始まりました。主司式は小松史朗師、共同司式者は、会津隆司師、川崎忠紀師、成井大介師。参加者は、スタッフ、協力者、子どもたちも含めて15人という、まさにイエス・キリストがお生まれになったベトレヘムの馬小屋に等しいつつましい門出でしたが、参加者のどの顔も輝いていました。♪

「オープンハウス」と言っても、まだまだ改修工事が続く予定です。ボランティアの方々を迎えられるまでには、スタッフの苦労は続きます。ちょうど、イエスが12歳の時、神殿に詣で、迷子になって探しまわられたのち、ナザレに帰られ、神と人々に愛されて成長されたと聖書に書かれているように、ベトレヘムの馬小屋に等しい石巻ベースの誕生は、これから神と人々に愛されて、大きく成長していくことでしょう。

ボランティアの皆様をお迎えできる日を楽しみにしています。そのときはどうぞよろしくお願いいたします。

マリアさまとともに歩む！

聖母マリアがいとこのエリサベトが高齢ながらみごもったことを知らされると、急いでユダの山里を旅して手助けに赴かれたように、南三陸の被災地の支援活動をしている米川ベースのかたわらの民家を共同体の家として、聖母訪問会のシスター3人が赴任し、活動を開始しました。

この歩みは、まず1人のシスターが11月に、米川ベースのお手伝いをしながら、共同体の家を開くための準備をすることから始まりました。共同体の家が決まり、そこに住み始めたのが12月5日でした。ですから、メンバーたちは、この日を米川共同体の発足の日ととらえています。現在のメンバーであるシスター山下、シスター大河、シスター藤原の3人がそろったのは、12月21日でした。

開設の目的は3つ。①創立者の「必要に応える」という精神を生きる。②教会の要請に応える。③創立者が日本で最初に身を置いた場で奉仕する、ということが生きられる場として、修道会の会員たちは、米川ベースのこの家が共同体にふさわしいと感じました。

具体的には、被災に遭われた外国籍信徒の司牧、米川ベースでの手伝い、移動カフェのお手伝いなどを行っています。今後、取り組みたいことは、米川教会の近くにもフィリピンの方がいらっしゃるのでその方々を訪問すること、そして、「米川聖マリア保育園」への関わりも深めたいと思っています。

とてもうれしかったことは、柘沢仮設での移動カフェを久しぶりに訪問したら、仮設の方は覚えていてくださり、私たちが行けないときも、集会所に集まってお話しをしていたということです。もうここは、新しい共同体ができているということを感じました。

聖母訪問会の3姉妹！



今、私たち3人は、それぞれ、長崎・鎌倉・福岡の修道院から派遣されていますが、4月からは米川共同体所属となり、いよいよ本格活動が始まります。もう一つの願いは、私たちの修道会のシスターだけでなく、他の修道会のシスターたちと共に、同じ支援・援助活動ができればよいと考えています。これからも、いろいろなことでお世話になるとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。